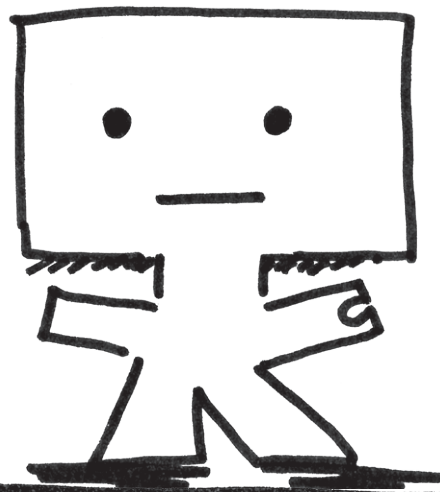


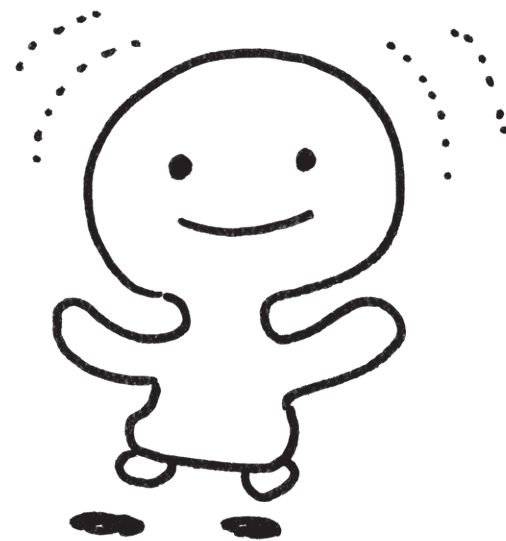
シカクくんの ‘はたらく’の物語

江頭 春可 作・絵



マルちゃんの ‘はたらく’の物語

江頭 春可 作・絵



マルちゃんは、
のびのびと溶け出すようなカタチがすき。
思うままに広がって、毎日、世界と出会っていたい。



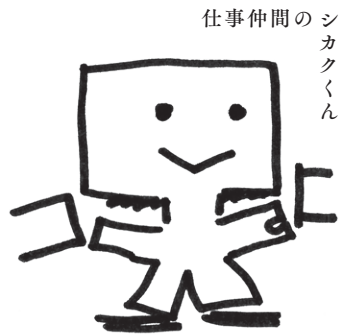
自分らしい
ステキな
‘はたらく’が
あるはず！

毎日、がむしゃらに広がってきた。
でも、ときどき思う
「わたしって何者なのか」って。



自分らしくありたい。
でも、はみ出しすぎると、
わたしのカタチがわからなくなってしまう。

あの真っ直ぐなカタチ・・・
わたしにはない「輪郭」がある。
かっこいいし、わかりやすい。



ああなれたらな—って
思うことがある。

自分らしく‘はたらく’って、なんだろう？

シカクくんに聞いてみた。



でも、説明しやすく、わかりやすいシカクくんが
羨ましくなるばかり。

しあわせに‘はたらく’ってどんなこと？
マルなのか、シカクなのか・・・

でも、あるとき、 ふたりは気がついた。

この仕事に
カタチは必要？

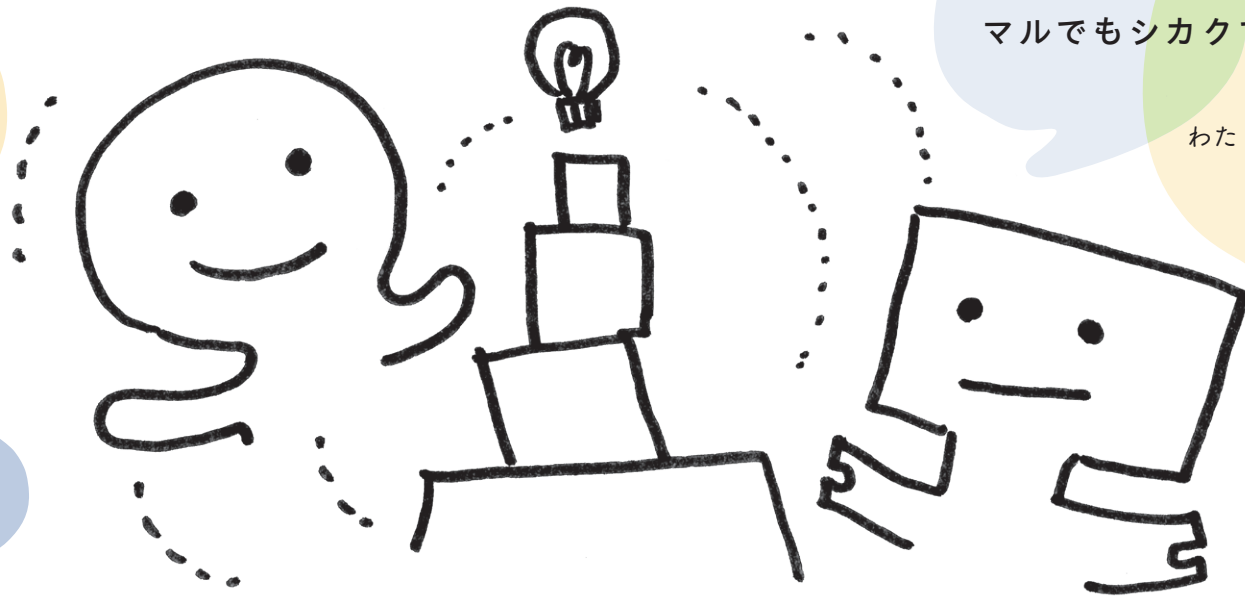


そういえば
必要なかった

そしてふたりはもう一度、目の前のことを確認すると
目的に向かい、いっしょに、がむしゃらに、はたらいた。

そしたら、ただ、しあわせだった。
マルでもシカクでも なんでもよかった。

わたしたちはただ、はたらいている。
ぼくたちは、仕事仲間だから。



自分らしく‘はたらく’って、なんだろう？



マルちゃんに聞いてみた。



でも、マルちゃんの話は分かりづらくて
どうしたらいいのか、混乱するばかり。

しあわせに‘はたらく’ってどんなだろう？

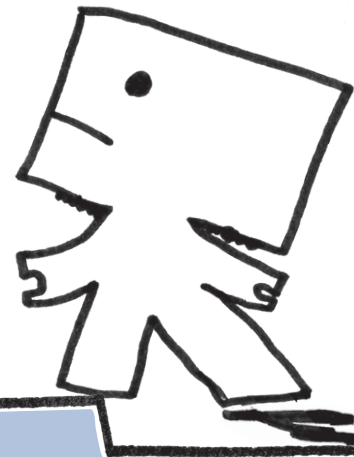
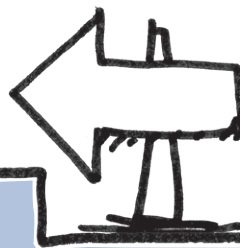
シカクでも、マルでもない・・・



仕事仲間のマルちゃん

なんて自由なカタチ・・・
ちょっと素敵だなんて思う。
でも、ぼくには無理だ。

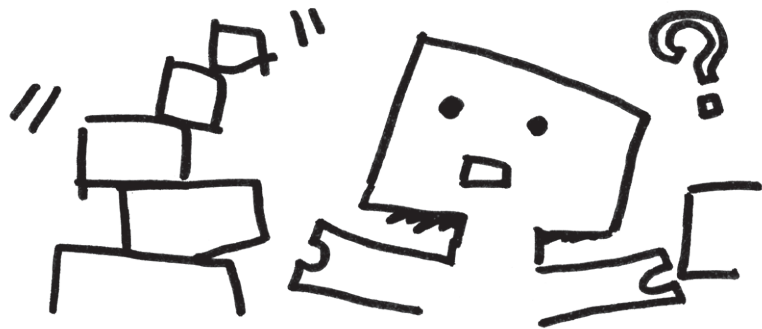
だって、
カッコがつかないよ
アレじゃ。



毎日、がむしゃらに積み上げてきた。

でも、ときどき思う

「これは本当に自分にしかできないのか」って。



役割のなかにいると安心する。

だけど、そこにずっといたら、分からなくなってきてしまった。

ぼくらしさはなんだったのか。

シカクくんは、

きちんと固まっているカタチが好き。

毎日、確実に、見えることを積み上げていきたい。

自分にしかできない
カッコいい
‘はたらく’を
つくるんだ！

